

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県名【滋賀県】 学校名【 滋賀県立守山養護学校 】

1 実践テーマ	【 V 】										
2 実施対象者	中学部1年生：5名 中学部2年生：1名										
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )										
4 目標 (ねらい)	本校に在籍する児童生徒の多くは、入院前に前籍校で体育の授業に参加できていなかったり、入院前は参加していても退院後に参加できなくなったりするという実態がある。そこで、「どうすれば自分やみんながそれぞれの安静度や体調に応じた方法で参加することができるか」という視点で考える力を養うために、準備運動・練習内容・試合のルールを生徒自身が考え、工夫できるような活動を設定した。										
5 取組内容	単元名：バスケットボール 【活動計画】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">時期</th> <th style="width: 50%;">活動内容</th> <th style="width: 40%;">大切にしている点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">9月</td> <td>                             ・「みんなで作り上げる体育」について説明を聞く。                              ・事前アンケートに答える。                         </td> <td>                             ・アンケートでは生徒の体育に対するイメージ（好ききらいや得手不得手等）を聞く。                              ・転入があればその都度説明とアンケートを行う。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10月～12月</td> <td>                             ・車いすやベッド等、安静度が個々に違う場合のことも想定して、準備運動を考える。                              ・単元毎に練習内容や試合のルールを考える。                              ・単元終了後にアンケートに答え、事前アンケートとの違いを振り返る。                         </td> <td>                             ・生徒がPDCAサイクルを意識し学習に参加できるようにワークシートを用い、振り返りや改善をしやすいようにする。                              ・アンケートは生徒の変容がわかりやすいよう、事前アンケートと同じものを用いる。                         </td> </tr> </tbody> </table>		時期	活動内容	大切にしている点	9月	・「みんなで作り上げる体育」について説明を聞く。 ・事前アンケートに答える。	・アンケートでは生徒の体育に対するイメージ（好ききらいや得手不得手等）を聞く。 ・転入があればその都度説明とアンケートを行う。	10月～12月	・車いすやベッド等、安静度が個々に違う場合のことも想定して、準備運動を考える。 ・単元毎に練習内容や試合のルールを考える。 ・単元終了後にアンケートに答え、事前アンケートとの違いを振り返る。	・生徒がPDCAサイクルを意識し学習に参加できるようにワークシートを用い、振り返りや改善をしやすいようにする。 ・アンケートは生徒の変容がわかりやすいよう、事前アンケートと同じものを用いる。
時期	活動内容	大切にしている点									
9月	・「みんなで作り上げる体育」について説明を聞く。 ・事前アンケートに答える。	・アンケートでは生徒の体育に対するイメージ（好ききらいや得手不得手等）を聞く。 ・転入があればその都度説明とアンケートを行う。									
10月～12月	・車いすやベッド等、安静度が個々に違う場合のことも想定して、準備運動を考える。 ・単元毎に練習内容や試合のルールを考える。 ・単元終了後にアンケートに答え、事前アンケートとの違いを振り返る。	・生徒がPDCAサイクルを意識し学習に参加できるようにワークシートを用い、振り返りや改善をしやすいようにする。 ・アンケートは生徒の変容がわかりやすいよう、事前アンケートと同じものを用いる。									
	【検証の方法】										

	<p>①事前アンケート（中学部1年生：5名、2年生：1名）  運動や体育の授業が好きかどうかということと、種目ごとの得手不得手について、中学部1・2年の6名にアンケートを行った。運動や体育の授業に関しては「好き」と回答したのが3名、「普通」が1名、「きらい」が2名であった。どんな授業が楽しかったか、または楽しくなかったかについて話を聞いたところ、体育の授業の好ききらいに関わらず、「全部見学の種目はおもしろくなかった。」「ルールによっては参加できない時もあった。」という意見が挙がった。</p> <p>②授業での取組（中学部1年生：2名、2年生：1名）  はじめの授業で、使用物品やルールについて「リングゴールとボールを使用する」という1点のみを教師から提示し、その他のルールは生徒が考えて取り組むようにした。最初、生徒は「ルールを自分たちで考える」ということに難しさを感じていたようであったが、「ルールを考える→実践する→改善する→実践する」という取り組む手順がわかってくると、ゴールの位置や高さ・ボールの種類で得点を変える等、工夫する姿が見られるようになった。また、同じルールでも少しずつゴールの高さを変えたり、シュートが届くギリギリの距離にゴールを配置したりと、難易度を徐々に上げて、挑戦することを楽しむ姿も見られた。</p> <p>③事後アンケート（中学部2年生：1名）  生徒の変容を見るために、事前アンケートと同じアンケートを実施した。回答に変化は見られなかったが、学習の感想では「色々と試しながらできて楽しかった。」という意見が挙がった。</p>
6 主な成果	<p>在籍状況が変化し、保健の授業を優先すべき生徒がいたため、生徒全員に対して検証は行えていない。また、体育に取り組んだ3名が全員座位での参加であったため、目的に挙げた「どうすれば自分やみんながそれぞれの安静度や体調に応じた方法で参加することができるか」という視点について、座位以外の安静度を想像して取り組むことは難しかった。しかし、今回の実践の中で「ルールを変えることで参加できたり、楽しめたりする」ということに生徒自身が気付くことができたのは、1つの成果であると考えます。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>これまでも本校は、単元内で生徒が取り組むことができる部分を抽出したり、ゲームのルールを工夫したりすることで、「全員が参加できる体育」の授業づくりをしてきた。今回の実践では、より生徒の主体性を大切にしたいと思い、これまで教師が考えてきた「全員が参加できる体育」の一部を、生徒自身が考える場を設定した。しかし、一から全てのルールを作ることは難しいため、ルールを考える際の項目を「得点の方法」と「勝敗の決め方（時間制やターン制等）」の2点に絞り、何について考えるとよいのかがわかりやすくなるよう工夫した。</p>

<p>8 主な課題等</p>	<p>生徒の集団が少人数のため話し合い活動が充実しにくく、生徒が意見を発信する場が少なかった点が、課題として挙げられる。今後は実際に取り組んだ感想や、改善した際の根拠を発表する場等を設定し、ルールを工夫する力だけでなく、生徒が自らの意見を発信する力も伸ばしていきたい。</p> <p>1つの单元ではアンケートの回答に変化は見られなかったが、他の单元でも「できる・わかる」を実感でき、「楽しい」と感じられる授業づくりに取り組むことで、生徒が主体的に考え、運動に関わっていく姿勢づくりにつなげていきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度以降も、バスケットボールの单元では、今回の実践を生かした授業づくりに取り組み続けたいと考える。今年度の反省の1つとして、滋賀レイクスターズの選手による学校・施設訪問（レイクスキャラバン）の申請が遅くなってしまい、日程調整等が上手くいかず、実施できなかったことが挙げられる。来年度以降は年度当初から計画的に取り組む、レイクスキャラバンのような活動をしっかりと活用することで、生徒がさらにバスケットボールに興味をもてるようにしていきたい。</p>



**【ジャンボリングゴール】**  
高さや角度が変えられることで、難易度やルールの工夫がしやすくなった。

**【ソフトフォームボール（直径21cm）】**  
パスやシュートの練習では、患肢に当たったの事を考慮して、



低いゴールを前に、高いゴールを後ろに設置した。  
高いゴールは難易度が高かったため、ゴールの角度を変更して挑戦する姿が見られた。

投げる物によって得点を変えるなど、工夫して取り組んだ。  
(ソフトバレーボール、風船、フリスビーなど)